

81ストなし春闘を厳しく総括し、 真に戦闘的動労運動を再生しよう！

軍事大国化のための国鉄Ⅱ「三五万人体制」とは、ストライキで闘う労働組合を認めない体制というものであり、逆に、闘う労働組合が存在する限り「三五万人体制」はできないというものです。であるからこそ、高木総裁をして「八一ストなし春闘」は「総裁に就任してから一番うれしかったこと」と言わしめ、就任以来の労使協調路線の「成果」を自賛させているのです。

八一春闘総括は、ここにこそ焦点を合せたものでなければなりません。

第二に、政府・自民党が、八一春闘に当って「ストなし」よりもむしろ「低額おさえ込み」に力点をおいて対応してきたことに見られるように、国会の場において公労法十六条をたてに仲裁裁定完全実施を拒否してくることは必至であり、第二臨調答申（行政改革）や国鉄三五万人合理化との「一撃」攻撃も含め、八一春闘をストなしにして得た代償としての低額賃上げすらも奪い取ろうとしていることです。

「仲裁」実施と合理化の 「一撃」を許すな！

八一ストなし春闘と併行して、鈴木訪米を軸とする「防衛大綱」作り、「有事立法研究」「軍備大増強」の動きが一挙に全面化し、鉄鋼労連、自動車総連などを中心に右翼的労働再編を目指す「統一推進会」が「労働戦線統一の基本構想」を明らかにするなど、右の側からの反動攻撃が、かつてなく強められています。

「右翼的再編」などと敵対するものとは厳しく対決する」という高飛車な「統一推進会」の姿勢は、総評労働運動が「ストなし春闘」によって空洞化されてしまった足元を突いて、一挙に右翼的労働統一を強行しようとするものであり、断じて容認できないことです。国鉄当局は、このような情勢を見越して、「三五万人」をさらに上回る大合理化計画を、五月早々にも各労働組合に提案しようとしています。

強まる反動攻撃

労働者の尊厳をかけて闘うことなしに、労働者の未来を展望することができない時代へ突入し、たことを肝に銘じ、動労千葉とともに、動労大改革―戦闘的労働運動の再生へ決起してゆこうではありませんか。



全国の動労組合員みなさん。八一春闘がストなしで終わったことによって、日本労働運動は、さらに厳しい状況に立ち至っています。とりわけ、われわれ国鉄労働者にとっては、国会における配分と合理化案の「一撃」攻撃、闘わない指導の足元につけ込んだ当局からの三五万人合理化の強行攻撃等、極めて厳しい課題が、陸続として押しよせてくることは必至です。

動労千葉が三月ジェット決戦闘争を闘ったように、そしてかつて助士廃止反対やマル生粉砕闘争を闘ったように、組織の存亡をかけ、労働者の未来を展望することができない時代へ突入し、たことを肝に銘じ、動労千葉とともに、動労大改革―戦闘的労働運動の再生へ決起してゆこうではありませんか。

日刊 動労千葉

81.5.3
全国版
No. 85

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆電話）二七二〇七

われわれは、「本部」反動分子の「安定宣言」「謀略」路線によるセクト的闘争破壊策動を粉碎し、このような「ストなし国鉄」化策動Ⅱ軍事大強化へ向けた産報化策動と断固対決する労働運動を職場・生産点から創り出してゆかなければなりません。

「本部」反動分子を追放し、職場 ・生産点からの闘いを創造しよう

動労千葉は、この間、三月ジェット決戦闘争を頂点とする闘いを、そのようなものとして闘い抜き、指導部が正しい路線を提起するならば職場・生産点は充分闘い抜けることを示し抜いてきました。

いま、首都圏を中心に、全国の動労内外の職場・生産点から「動労千葉のように闘おう」という気運が、「動労千葉支援基金」の具体的決起を軸に大きく盛り上っています。

職場・生産点の要求と討論を基礎に作りあげた方針をもって、職場・生産点の闘いを基礎に敵と対決するという労働運動の原則を投げ捨て、ボス交によって政治主義的に歪曲してきたことの当然の帰結として、今日の八一春闘惨敗の現実があることを銘記しなければなりません。

この現実を、より政治主義的にネジ曲げ、「冬の時代」「安定宣言」「謀略」に路線化し、自らがセクト的に生き延びるために職場・生産点の要求を権力・当局に売り渡す「本部」反動分子を追放・一掃し、真に戦闘的な動労の戦闘的伝統を再生してゆくことは、三五万人体制攻撃が職場を直撃している中で、全ての動労組合員に課せられた最大の課題であると言わなければなりません。



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！